

官民パートナーシップ確立に向けた取り組みの展開と課題 ー市民が育てる「LEDが魅せるまち・とくしま」推進プロジェクトを事例としてー*

Development and Problem by the action for the Construction of “The Government and Citizen’s Partnership”
- A Study of the Promotion Project "LED Charms City TOKUSHIMA" by Citizen Participation -

花岡史恵**・喜多順三***・板東千幸****・北川フラム*****・山中英生*****
By Fumie HANAOKA**・Junzo KITA***・Chiyuki BANDO****・Fram KITAGAWA*****・Hideo YAMANAKA*****

1. はじめに

(1) 背景

徳島市では、平成 19 年度に、以後 10 年間のまちづくりの指針となる「第 4 次徳島市総合計画」を策定し、市の将来像を「心おどる水都・とくしま」と定め、人としての真の豊かさが実感できるまちづくりを目指している。その「心おどる水都・とくしま」実現の一手段として、徳島の新産業である LED（発光ダイオード）に着目した地域再生計画「LEDが魅せるまち・とくしま」推進プロジェクトを策定し、LEDを活用したまちづくりに取り組んでいる。

この「LEDが魅せるまち・とくしま推進」プロジェクトでは、①徳島 LED アートフェスティバルの開催、②LEDを活かしたまちづくり、③LED 景観整備事業、④LED 関連企業の誘致、の 4 つを柱として推進している。

これらの実現のためには、企業誘致や育成、LED を活用した社会基盤整備の充実など取り組むべき課題は多いが、その中でも、まちづくりの主役である市民の積極的な関わりは不可欠となる。

NPO 法人コモンズ（以下、「コモンズ」と略記）は、平成 19 年度に、徳島市から相談を受け、「LED が魅せるまち・とくしま」推進プロジェクトを協働事業として推進することを提案し、平成 20 年度には、徳島市の事業である「徳島市協働事業」に応募し、採択され、市民を対象としたワークショップ等を開催した。

一方、国の動きとしても、官民パートナーシップの重要性が謳われており、内閣府所管の「官民パートナーシップ確立のための支援事業」（以下、「官民パートナーシップ事業」と略記）に、徳島市とコモンズが協働で企画申請を行い採択された。

官民パートナーシップ事業は、市民が育てる「LED が魅せるまち・とくしま」推進プロジェクト（以下、「LED とくしま P J」と略記）と題して、徳島市の地域再生計画で掲げた「徳島 LED アートフェスティバルの開催」への市民参加のきっかけとなる事業として捉え、「LED を知る・学ぶ」「LED を活かす・使う」「LED を伝える」をテーマに、市民参加によるセミナーやワークショップ（以下、「WS」と略記）の開催、オープンハウスの実施等を行った。

(2) 目的

本研究では、平成 20 年度の官民パートナーシップ事業で行った「LED とくしま P J」の取り組みを整理し、現時点で、この取り組みが与えた成果と、今後の徳島市の地域再生に根ざした活動の新たな展開に向けて、基礎考察を行うことを目的とする。

2. 徳島市地域再生計画の概要

徳島市は、吉野川を代表として大小 138 の河川が流れる水の豊かなまちで、徳島市の中心部には、新町川と助任川に囲まれた中洲が「ひょうたん島」の愛称で親しまれている。今までに、このひょうたん島を中心として水を生かしたまちづくりが進められてきたが、今後は、これまで整備してきた水と緑の魅力に、地域資源である LED の「光」の要素を加え、新たな魅力を持つ「水都・とくしま」を創造・発信し、LED 関連産業のさらなる集積や集客の拡大を目指す。その実現に向けて、徳島市は、地域再生計画「LED が魅せるまち・とくしま」推進プロジェクトを策定した。

この地域再生計画では、4 つの柱を立てて推進してい

*キーワード：官民パートナーシップ、LED アートフェスティバル
参加・協働・連携

** 正員、C プランニング・NPO 法人コモンズ
(徳島県徳島市上八万町樋口 118-1 TEL088-678-6116)

*** NPO 法人コモンズ
(徳島県徳島市南常三島町 1-2-5 TEL088-652-7666)

**** 徳島市商工労政課
(徳島県徳島市幸町 2-5 TEL088-621-5225)

***** (株) アートフロントギャラリー
(東京都渋谷区猿樂町 29-18 TEL03-3476-4868)

***** 正員、工博、徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部
(徳島県徳島市南常三島 2-1 TEL088-656-9877)

る。表-1に、推進概要を示す。

表-1 地域再生計画の推進概要

項目	概要
①徳島LEDアートフェスティバルの開催	LED技術とアートを融合し、「徳島＝LED」というイメージを全国にPRする機会として、市民参加型の芸術祭を開催する。また、これをきっかけに、市民・行政・企業・大学・専門家等の協働による持続的なまちづくりを推進する。
②LEDを生かしたまちづくり	新町川水際公園のイルミネーション等を現在の電球からLEDに交換するなど、既存の街の照明や公共事業においてLEDを活用し、市民にとって安全・安心で、生活や環境にやさしいまちづくりを進める。
③LED景観整備事業	新町川を中心とする中心市街地をLEDによる景観整備により、これまで以上に市民が親しみ、憩える、また観光客にも滞在したいと思わせるような空間を創造する
④LED関連企業の誘致	徳島市独自の企業誘致策「企業誘致推進(ウエルカムT)プラン」を策定し、特にLED関連産業には、積極的な立地支援メニューを策定して誘致を図り、徳島と共に歩む企業を育てる。

3. 「LEDとくしまPJ」の概要

(1) 事業の背景

「LEDとくしまPJ」は、徳島市が立案した地域再生計画の実現に向けて、平成20年度の内閣府所管「官民パートナーシップ確立に向けた支援事業」に、徳島市とコモンズが協働で企画申請し、採択されたプロジェクトである。

本プロジェクトは、平成19年度に、コモンズが徳島市から、徳島LEDアートフェスティバルに向けたシンポジウム事業を委託したことから発展し、平成20年度に、徳島市とコモンズによる徳島市の協働事業および徳島市の地域再生計画の立案を経て、官民パートナーシップ事業として実施された。

(2) プロジェクトの経緯と位置づけ

本プロジェクトは、平成19年度に策定された第4次徳島市総合計画のリーディングプロジェクトを上位計画とし、平成20年度に策定された徳島市地域再生計画の推進項目の1つである「徳島LEDアートフェスティバル」開催の実現に向けて、市民参加を促すきっかけとなった事業として位置づけられる。

また、本プロジェクトの実施までに、徳島市においては、平成19年度に、新町川に架かる橋の一つであるふれあい橋のLEDによる景観整備事業や、LEDアートフェスティバルに向けてのシンポジウムの開催を経て、平成20年度には、コモンズとの協働による徳島市協働事業で、WS等を開催し、市民・行政・専門家等が一同に会する協働の場づくりを構築してきた。

本プロジェクトの経緯を図-1に示す。

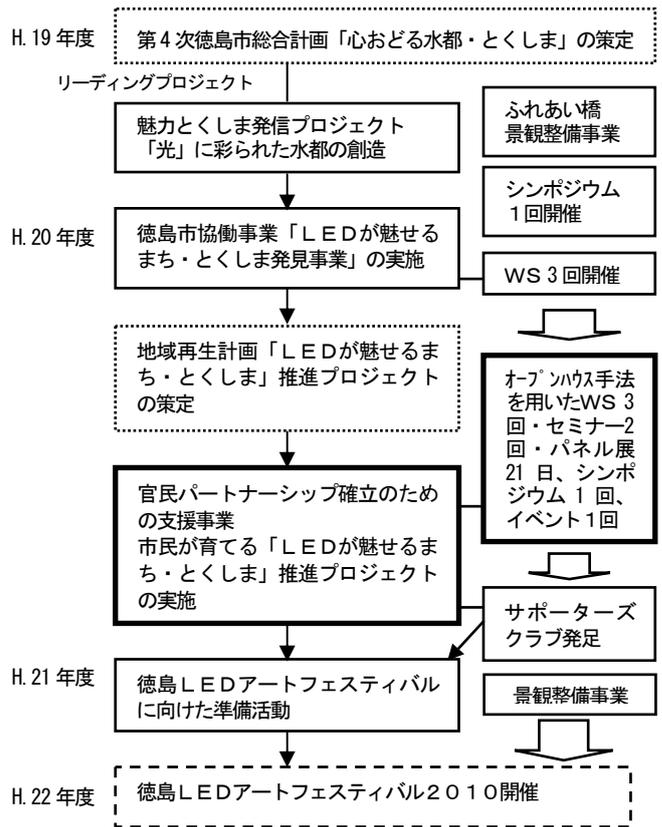


図-1 プロジェクトの経緯

(3) プロジェクトの構成

本プロジェクトは、①LEDを知り、多様な活用を学ぶセミナーを開催する【知る・学ぶ】、②LEDの活用方法を探るWSを開催する【活かす・使う】、③LEDを有効活用した活動の情報を発信する【伝える】、の大きく3つの取り組みから構成されている。

3つのプロジェクト構成の概要を表-2に示す。

表-2 プロジェクトの構成

キーワード	取り組み概要
知る・学ぶ	専門家や企業の協力を得て、地域資源であるLEDを知り、多面的な活用方法を学ぶ場を提供し、新たな人材の発掘と育成や市民と企業・専門家の協働関係づくりを目指す【セミナー3回開催】
活かす・使う	参加型のものづくりを考える場を設け、芸術家や専門家と市民の協働によるLEDの活用策を検討することで、次年度以降のサポーターズの活動へとつなげるとともに、新しい地域文化や地域産業の創出のモデルへとつなげる【ものづくりWS3回開催】
伝える	オープンハウスでの情報発信により、市民が気軽にLEDに関連する様々な情報が得られる環境やLEDを活かした活動が展開できる環境を整備し、市民に対し「LEDが魅せるまち・とくしま」の定着を図るとともに、LEDサポーターズへの参加を働きかける【オープンハウス21日開催・シンポジウム1回開催・イベント1回開催】

(4) プロジェクトの成果

本プロジェクトでは、前出の3つの構成による具体的な活動として、オープンハウス手法を用いた、セミナー、

WS、パネル展、シンポジウム、イベント等を組み合わせで行った。主な取り組みと、その成果を表-3に示す。

表-3 プロジェクトの成果

取り組み	数量	参加者数	備考
運営会議	8回	延 37名	市役所+コモンズ 11月~2月(4ヶ月)
個別計画会議	6回	延 39名	作家+サポーター+コモンズ 12月~2月(3ヶ月)
ものづくりWS	3回	延 138名	12月~2月
セミナー	2回	延 88名	12月、1月
シンポジウム	1回	200名	2月
かわら版	4回	—	11月~2月
専門家ヒアリング	1回	—	1月
オープンハウス： パネル展アンケート	—	188名	2箇所/4日間 1月~2月(21日間)
LED作品づくり	1式	89名	作家+88個の作品出展
イベント(作品展)	1回	3,000名	徳島新聞公表
サポーターズ登録	—	58名	2月14日現在
	—	103名	6月末現在



写真1 ものづくりWSの様子



写真2 オープンハウスでのパネル展示

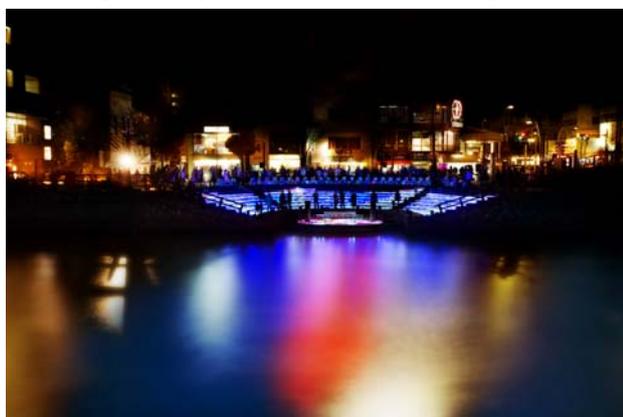


写真3 イベント(作品展) : 2009.2.14

4. プロジェクトの概要と期待できる効果

(1) 取り組みの概要

本プロジェクトにおける取り組みの概要を表-4に示す。

表-4 取り組みの概要

取り組み	概要
運営会議	積極的に、市役所担当者とコモンズ担当者による活動運営の検討を行う場を設け、常に連絡を取り合う関係づくりを構築した。
個別計画会議	具体的な活動を計画する前に、コモンズが主体となって作家や技術的なサポーターと調整する場を設け、活動への連携意識を高めた。
ものづくりWS	徳島市とコモンズが協働で、作家と市民をつなぐ参加の場づくりとして、LEDを使ったものづくりWSを3回開催し、「作家と作品を共につくる」という市民の意識高揚に努めた。
セミナー	徳島の新産業であり地域資源でもあるLEDを知り、学ぶためのセミナーを、ものづくりWSの前段に組み合わせ、専門家を招いて開催し、LEDの簡単な仕組み等を市民にわかりやすく学んでもらうきっかけの場を設けた。
シンポジウム	拡大セミナーとして、作家や関係者、WSに関わった市民等が一同に会して、基調講演やパネルディスカッションにより、徳島LEDアートフェスティバルに向けての意見交換を行った。
かわら版	ものづくりWSやセミナーなどの活動を月に1回のかわら版にまとめ、LEDが魅せるまち・とくしまのPRとして活用した。また、この内容は徳島市HPでも紹介している。
専門家ヒアリング	徳島LEDアートフェスティバルのアートアドバイザーに、コモンズメンバーがヒアリングを行い、アートフェスティバルの方向性等について意見交換を行った。
オープンハウス： パネル展アンケート	オープンハウスでは、パネル展を2日間開催したが、そのうち、大型店舗で開催した4日間に、来訪者アンケートを行った。このオープンハウスでは、パネル展やLEDものづくりなどを通して、LEDと2010年に開催されるアートフェスティバルのPRを行った。
LED作品づくり	ものづくりWSを通して、作家からの提案で、作家の作品以外に、市民による88個の作品(四国八十八ヶ所にちなんで)づくりを行い、作家の作品と一緒に展示した。
イベント(作品展)	作家の作品と88個の市民の作品を一同に展示して、バレンタインイベントとして開催した。イベントでは、ピアノライブや新町川クルージング、パラソルショップなどが開かれ、いつもは人通りの少ない新町川東公園に、一晩で約3,000人が参加した。
サポーターズ登録	2010年開催予定の徳島LEDアートフェスティバル開催に向けて、作家の作品づくりや開催時のサポートをしてもらうサポーターズクラブを結成するために、サポーターの募集・登録を行った。

(2) 取り組みの初期的成果

本プロジェクトの実施により、平成21年度初期に現れた取り組みの成果として、まず、サポーターズクラブが設立されたこと、徳島市の景観整備事業が、アートフェスティバルと連携して、アート作家のデザインによる景観整備が実現されること等が挙げられる。

これらの成果の現れには、本プロジェクトと連携して

「徳島LEDアートフェスティバル」実行委員会が設立されたこともあるが、取り組みに関わった人の参加形態を本プロジェクトの官民会議体のコーディネートによって形作ってきたことに、大きく起因している。

平成20年度の取り組みと参加形態、その初期的成果を整理し、図-2に示す。

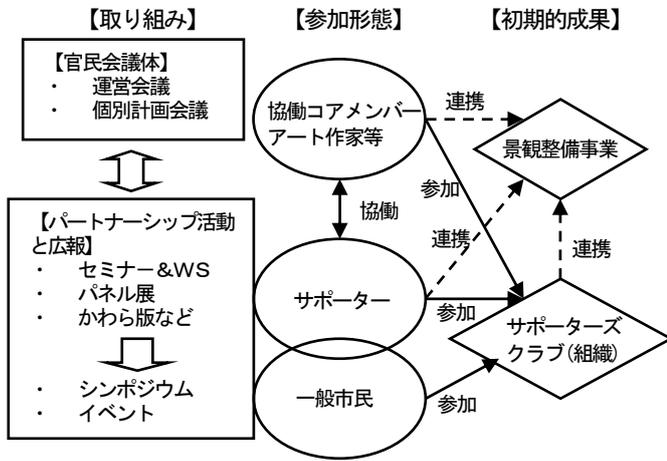


図-2 取り組みと参加形態、その初期的成果

(3) 継続・発展により期待できる効果

本プロジェクトの実施により得られた初期的成果を一時的なものに終わらせることなく、継続・発展させることで、平成 21 年度以降のパートナーシップ活動を確立させる必要がある。

初期的成果をもたらした取り組みを整理して、今後に期待できる効果を考察し、以下に示す。

表-5 継続・発展により期待できる効果

取り組み	効果
運営会議	・ 立場を越えた同テーブルで話し合いの場が設定され、協働の本来の意味を考える機会が得られる →【行政+NPO】のパートナーシップ確立につながる
個別計画会議	・ NPOが主体となって、個別活動ごとの関係者と計画立案する場づくりを提供することができる ・ 計画立案が効率的に進められる →【NPO+専門家】のパートナーシップ確立につながる
セミナー&ものづくりWS	・ セミナーやものづくりを通して、市民に、新しい産業（LED）を身近なものとして受け入れてもらえる機会を提供できる ・ 新しい産業（LED）の活用を通して、市民のアイデアを発掘できる ・ 気づきや「つくる」という行為で、市民のいきがい発見にも寄与する →【市民+NPO+専門家+行政】のパートナーシップ確立につながる
シンポジウム	・ 市民・行政・専門家等が一同に会することで、意識高揚が図れる ・ 活動PRとしての発進力を持つ →【市民+NPO+専門家+行政】のパートナーシップ確立につながる
かわら版	・ タイムリーな活動情報を発信できる ・ 活動記事になることで参加者の意識高揚が図れる →活動周知と活動啓発につながる
専門家ヒアリング	・ 専門的知見を得られる ・ 意見交換により、新たなアイデアが創出される →【NPO+専門家】のパートナーシップ確立につながる
オープンハ	・ パネル展などのビジュアル的效果で、活動周知が

ウス	できる ・ 来訪者とのコミュニケーション等により、新たな人材発掘につながる →パートナーシップ活動を発信できる
LED作品づくり	・ 作家の作品づくりや自分の作品づくりを通して、新たな産業（LED）の活用につながる ・ 地域産業と芸術の融合により、新たな地域文化の創出につながる →【行政+NPO+市民+専門家+企業】のパートナーシップ確立につながる
イベント	・ 活動成果の大きな発進力となる ・ 多数の参加者を呼びかけることで、活動への賛同者を増やすことができる ・ 参加の市民が、「ゲストからホスト」に変わるきっかけにもなる：参加→参画 ・ 継続することで、イベントが「地域文化」として醸成される：参考「阿波踊り」などの祭り →パートナーシップ活動の発信と新たなパートナーシップ活動へのきっかけと発展につながる
サポーターズ登録：サポーターズクラブ	・ サポーター登録により組織的な活動につながる ・ 活動を知りたい人、活動したい人に、タイムリーな情報が伝わる ・ 登録者が戦力となり、活動が活性化する ・ 市民のいきがいつくりにも寄与する →パートナーシップ活動の確立と展開につながる

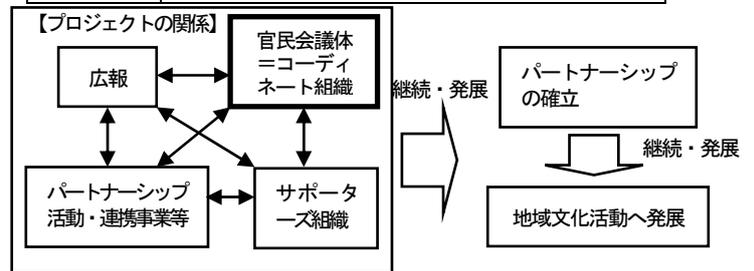


図-3 継続・発展により期待できる効果

5. おわりに

本研究では、「LEDとくしまPJ」の取り組みの概要を整理し、初期的成果を通して、今後に期待できる効果の基礎的考察を行った。今回の取り組みの初期的成果として、①徳島市とNPO法人が一つのプロジェクトチームとなり、官民の立場を越えたパートナーシップ事業として行われたこと、②徳島市とNPO法人がコーディネート機能を有することで、一般市民や専門家等との連携や協働体制が確立されてきたこと、③地域再生計画に基づいたパートナーシップ活動を通して、徳島市の別事業（景観整備事業）と連携できたこと、が挙げられる。

今後は、これらの初期的成果を継続・発展させて、平成22年開催予定の「徳島LEDアートフェスティバル」が単年度の単なるイベントで終わることなく、地域再生に根ざした徳島の新たな産業と文化が融合した地域文化活動として確立され、「LEDが魅せるまち・とくしま」を発進できるよう、引き続き研究を継続して行きたい。

参考文献

- 1) 徳島市：第4次徳島市総合計画,平成19年10月
- 2) 徳島市：地域再生計画「LEDが魅せるまち・とくしま」推進プロジェクト,平成20年8月
- 3) NPO法人コモンズ：平成20年度官民パートナーシップ確立のための支援事業「市民が育てるLEDが魅せるまち・とくしま推進プロジェクト」報告書,内閣府,平成21年2月